

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月22 日

ふれあい

## 【評価実施概要】

事業所番号	347250087		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地 (電話番号)	広島県東広島市西条町寺家7429 (電話) 080-424-8801		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成19年8月20日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	<input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名	
要介護3	3 名	要介護4	4 名	
要介護5	1 名	要支援2	名	
年齢	平均 88 歳	最低	78 歳	最高 106 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	下山クリニック・たじま歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ふれあい」の利用者への支援体制の基本は、多職種による協働であり、また母体の医療法人の理念を基に「地域のなかでその人らしく生活することを支えるケア」を目指したホームで独自に「各ユニット毎」の理念をつくりあげている。母体系列の医療法人や関連施設の協力を得ながら、利用者の健康管理などの体制も確立されている。ホームの立地は、国道2号線に近く家族等が訪問されるのに利便性が良く、近隣には商業施設もあり、またホームも含めた関連施設全体も広々としており環境に恵まれている。利用者の方も散歩や菜園の手入れなどを楽しみにし、安心や居心地の良さを感じられている様子であった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、地域との関わり強化について話し合われているが、その後の取り組みとしては全職員で話し合いながらホームの近隣地域に対しては行事案内等のポスティングを行ったり、また明るく元気の良い挨拶運動を継続して行いながら地域活動や人々との関わりを積極的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取り組みについては、職員で再意識しながら、ケアの振り返りを行い、またそれらを見直し、事業所の質の向上の確保に繋げるよう最大限活かすようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議のメンバーから多くの率直な意見を求めながら、これらを取り上げながら地域の理解と支援を得るための貴重な意見としてあらゆる機会にこれらを伝えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見等を気軽に伝えられるような機会を出来るだけ設けており、個々の利用者の家族の立場に立って確認を行っている。また、このほか意見や苦情等は前向きに受け止め、活かしていく姿勢と取り組みがなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携や交流の手段は、ともに暮らす地域の一員として考え、これらが地域で必要とする活動の役目を担っていく努力をされている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体の法人の理念を基に、地域生活の継続的な支援を支えるためのホーム独自「各ユニット毎」の理念がつけられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームでは、常日頃から朝礼時などの機会に理念を唱和するなどしており、また利用者への日常の支援も理念を意識しながら取り組んでいる。		ホーム独自の理念をより具体化しながら、ミーティングや申し送り、職員の交替時には理念に必ず触れられ、今以上の確認をし合うことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所と地域の人々が支えあうような双方関係をつくり、よく全職員で話し合いながら地域活動などの情報を数多く収集しながら職員は地域の催しに参加するなどの取り組みをおこなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の一連の過程を通じて質の確保や向上につなげるような取り組みをおこなっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を常に全職員に、また地域に報告し話し合い、一つひとつ積み上げるようにしている。		地域の資源の活用を更に見直しされるとともに、幅広い立場の関係者が多数参加される会議となるように今以上の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とともに課題解決を図っていくための体制はあるが、現在ではまだその連携の機会が少ない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には必ず声かけをし、利用者の状況や家族のことについて話し合っており、また毎月手紙で現在の状況報告を行い、その様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見については、全職員で話し合い等で対応を迅速におこない、質の向上をめざす一助としている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化する制度で、顔馴染みの職員のケアを心がけている。職員が代わる時点には、引き継ぎの期間を十分にとり、スムーズに移行できるような配慮もなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連施設内や外部での研修、報告会には、全職員が参加できる体制となっており、また研修報告書も全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員を含めて関連の事業所などと学習会や交流を持つことにより、サービスの向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族等が安心と納得の行く確保のためには、本人や家族に事業所を見学してもらうことから始め、本人と家族にあった個別利用の開始の調整を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は常日頃から一緒に過ごし、学び、支えあう関係を日常の中でつくっていきながら支援を行っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払いながら、把握しながら支援を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>画一的な介護計画ではなく、一人ひとりのその時点にそった個別に具体的な計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間にとらわれず、変化に応じて本人・家族、必要関係者と話し合い、臨機応変に見直しされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関とは、24時間の連携体制を確保し、また本人や家族が希望するかかりつけ医や希望する医療機関による受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、またこれに事業所が対応しうる支援方法を検討し、これらを踏まえて対応を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃から、職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応のあり方の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には利用者と一緒に採って来た畑の野菜などの食材を使って一緒に調理をし、食事を1日の大切な活動のひとつにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の体調と希望を確認し入っていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や本人の希望などを取り入れその時々に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の方の出していく気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーができています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。また定期的に関連施設の管理栄養士の専門的アドバイスももらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は自らの五感を活かすとともに、利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、利用者にとって居心地のよい場を整えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品が部屋に持ち込まれ、居心地よく、プライバシーを大切に安心して過ごすための環境作りの工夫がなされている。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームふれあい Aユニット

事業所住所 東広島市西条町寺家7429

評価年月日 H 19 年 8 月 1 日 記入年月日 H19 年 8 月 1 日

記入者 職 ケアリーダー 氏名 佐々木 優子



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念と共に、事業所独自の理念・目標を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼時に理念と目標を唱和し、常に意識して取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関（入り口）やスタッフルームに掲示し、入居時に説明しているが、今後も具体的に取り組んで行く。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	普段の様子や活動について、定期的に広報誌を発行し、近隣施設などに送付している。 また、夏祭りなどの行事の案内をしたり、気軽に挨拶をするよう実践している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。			当事業所での行事などに地域住民にも参加していただき、交流を深めているが、こちらから地域の行事などにも参加し、更なる理解と交流を深めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ミーティングなどで話し合うこともあるが、実現には至ってない。		話し合いで終わるのではなく、実現に向けて職員の意識向上に努める。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。			
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に一度、市職員、地域・家族代表、当事業所職員により、推進会議を実施、意見交換し、いただいたアドバイス等は朝礼やミーティングで共有し活かしている。		運営推進会議の報告書は、各家族に送付している。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会などに積極的に参加し、その後事業所に於いて勉強会を開催している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に説明し、同意を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。			
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	普段の様子や活動について、写真を同封した手紙を郵送したり、電話や面会時に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時等、管理者・職員など対応し、朝礼や、ミーティング等で反省・問題点など話し合い改善している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングなどで意見や提案など聞き、取り入れているが、十分でない。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	極力そのように努力しているが、職員の人数の関係上十分でない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。			
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修（中途採用含む）を実施、その他スキルアップのための内部研修や外部研修に積極的に参加している。		
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。			研修会等で情報交換はあるがそれ以外でも電話や訪問など、交流を広げて行きたい。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	業務上の問題点や悩みなどを聞く機会は持っているが、十分な活用がされていない。		
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	法人に於いて、マイスター試験を実施し、取得者には給料にそれを反映している。 また、マイスター資格取得に関わらず職員の努力、実績等は評価している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	常に対話し、利用者の声を聞き、信頼関係を築く努力を怠ることなくしているが、十分ではない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居時、面会時、その他でお聞きしているが、家族に満足していただいているかどうかわからない。		事業所に対してのアンケートを実施している。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	センター方式を取り入れ対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学や、家族の意向も合わせてお聞きし、相談・対応している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り・掃除・洗濯畳みなど、一緒に行い親子・孫のような関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時の対話、電話連絡等は絶えず行っているが、完全とは言えない。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	職員の努力は怠ることはないが、理解の得られない家族もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。			家族の協力を求めていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しがちな入居者にはリビングにお誘いしたり、アクティビティーや行事の機会を活用し、交流の場面を増やすよう心掛けている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			季節の便りなど出して行きたい。
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を取り入れ、本人や家族の想いを尊重しているが、意思疎通の困難な人の想いが尊重されていない場合もある。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、センター方式で生活歴や趣味趣向などをお聴きし、入居前の住環境に近づけるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	食事時間等の目安は決めてあるが、起床時についても、個々のペースに合わすよう心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の意向やスタッフ検討を加えた上で「アセスメントシート」や「介護計画書」を用いて各ケア担当を中心にニーズの把握を行っている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヵ月に一度、定期的な見直しを行っている。 入居者の大きな変化があった際には、その都度見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「日誌」「生活記録」以外に「ケア推移記録」「個別健康管理表」を用いて日々の変化を記録している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者個人により、週3～4日デイケアを利用し、アクティビティの充実を図っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防士を迎えての防火訓練は年1回実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	原爆手帳取得の方にデイケアを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			情報を提供し、協議会などに参加するよう心掛けているが完全ではない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	同法人クリニックと24時間連携している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当法人の理事長は医師であり、認知症に深い知見を有している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携し、支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	常に医療機関と連携している。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>必要に応じて医師、家族と話し合いを持っている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>			
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>			
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>			
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>			<p>職員全員が心掛けているが完全とは言えない。今後更に意識を高めたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者個々のペースに合わせるよう心掛けている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	必要に応じて、家族に衣類等の補充や理髪への依頼、または、理髪の出張サービスにて対応。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	事業所の庭で一緒に野菜を収穫し、一緒に調理をしたり、食欲増進するような会話などで楽しみながらの食事を心掛け、後片付け等も行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。			
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	「生活状況表」を活用、個々に合った排泄パターンを把握するよう取り組んでいる。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。			本人の体調に合わせて支援している。 入浴時間も定めていないが、完全に自由とは言えない。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。			昼夜逆転等を防止するように心がけ、日中適度な運動を行えるよう取り組んでいるが、完全ではない。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	洗濯物たたみ、掃除、食器の後片付け等、個々に合わせた形で役割として担っていただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。			
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。			
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	職員の人数上頻繁にはいかないが、季節の行事として全体で年3～4回、その他ドライブや喫茶店など臨機応変に実施している。		行ってはいるが十分ではない。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。			
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	書類上面会時間は定めてあるが、基本的には時間制限なくいつでも面会でき、ゆっくりと過ごしていただけるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会など開催し実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	安全確保などの特例以外施錠はしていない。 玄関は開放、大雨などの場合も閉めてはあるが施錠はしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りについても、本人に圧迫感や威圧感を感じさせないように配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。			
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修会などに積極的に参加し、事故報告書・ひやりハット報告書など有効に活用し、職員の意識向上、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急時対応マニュアルを作成し、掲示をしているが、活用できていない場合もある。		マニュアルを解りやすく作成し直し、定期的に見直して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>			
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	折に触れ、家族に話しているが、完全ではない。		個別や家族会などを利用し、更なる理解を頂く。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	バイタルチェックを定期的に行い、表情の変化なども見逃さないよう、早期発見に努めている。		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	服薬は職員が管理対応し、処方の際には、医師・薬剤師から説明を受け、投与の際にも確認を怠り無く実践している。		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	職員は、本人の排泄のリズムを把握し、医師と連携しながら個々に応じて適度な運動、食事、水分の摂取に配慮している。		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	毎食後の口腔ケアを励行し、実践しているが、完全ではない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	医師と連携し、職員全員で取り組んでいる。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	市からのマニュアルを基に、事業所独自のマニュアルを作成し、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	流し台や調理器具、食器などは毎日消毒し、食料品も毎日新鮮なものを買ひ、作り置きはしない。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には四季折々の花を植え、畑では野菜が育ち、玄関も常に開放している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンやスクリーン、植物などを置き工夫している。四季の花やカレンダー、装飾等によって季節感を採り入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	そういう場として提供しているが、十分に活用できていない。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人のなじみの物を置き、趣味趣向を活かした居室になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	消臭剤や本人の趣味に合わせ、芳香剤を置くなどし、空調には十分配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の残存機能を活かし、無理のないように自立支援を実践している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の残存機能・能力を活かし、無理のないように自立支援を実践している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前には四季折々の花、畑には野菜が育ち、職員と一緒に水やりや収穫を楽しんでいる。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活

事業所名 グループホームふれあい Bユニット

事業所住所 東広島市西条町寺家7429

評価年月日 平成19年 7月 18日 記入年月日 平成19年 7月 20日

記入者 職 ケアリーダー 氏名 白井 立



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	それぞれ各棟の理念を作り、スタッフルームに張り出し職員の共通認識としている。また、毎朝、事業所全体の理念を職員で唱和し徹底を図っている。		ミーティングを繰り返し、更に理解を深めて行きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、事業所全体の理念を職員で唱和し、理解を深めていく取組みをしている。		朝礼時、時々職員同士で暗唱等を行うことで、より意識して行うことを取り組み始めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族へは、玄関やスタッフルームに掲示してある理念を、入居時に説明している。地域へは具体性のある行動がまだない。		家族や地域の方々に理解していただける機会となる行事が年に1~2回と少なく、もっと多く行うことで理解されるようにしていきたい。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	普段の様子や活動について、定期的に広報誌を発行し近隣施設などに送付している。また、近隣の方が近くの道路等で会うと職員の方から気軽に挨拶を交わすよう指導している。		日常的な付き合いが出来る機会をもっと作って行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	具体的にまだできていない。		自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の方と交流することに努めたい。具体的には、地域行事への参加を利用者の安全配慮を第一にしつつ行って行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	具体的にまだできていない。		地域への貢献はまだ具体性にかけている。地域の集会所等を利用して介護講習会等行える事業所を目指していく。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の結果を職員に閲覧させ、その結果を職務に反映するようにしている。		具体的にミーティングなどを通して、その理解をもっと深め、改善に努めて行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議においてサービスの実際などを中心に報告、話し合いを行い、サービス向上に活かしている。		今回の評価を中心に運営推進会議でその結果を報告し、もっと評価への取り組みをしていきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	具体的にまだ行えていない。		もっと連携を密にとり、サービスの質の向上につながる連携をとって行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	具体的にはまだ行えていない。		まず、地域権利擁護事業や成年後見制度についての学ぶ機会を持つことから始めて行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ヒヤリハット報告書等を通して小さなことでも見過ごさない体制作りをしている。		高齢者虐待防止法関連法について職員共通に学べる講習会の機会を作って行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	書類を一緒に解読しながら、利用者や家族等の不安・疑問点に対応した説明を行い、理解を深めるよう努力している。		もっと、疑問点に答えることができるよう、落ち着いた環境・時間等のなかでの説明を行って行きたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者が話しやすいよう、利用者の目線に立った傾聴に努めている。		利用者と外部者・第三者が触れ合う機会作りから始めて行きたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月ごと職員から、各家族への手紙やお見舞いにこられたときに個々にあわせてきめ細かい対応を行っている。		職員の移動等は、個々にあわせた報告までには至っていない。今後検討して行きたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所において苦情処理担当者をもうけ、または公共の苦情処理担当の窓口をわかりやすいところに表示し、意見の反映に努めている。		左記のきめ細かい対応
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各棟リーダーを中心に意見を聞き反映させている。		企画提案書等の活用で幅広い意見の集約を図って行きたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者、各棟リーダーを中心に柔軟な勤務調整を図っている。		利用者や家族の要望に対応できる柔軟な勤務体制の確保が出来る職員体制の確保に努めて行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	人事管理において必要最小限の異動にとどまるよう努力している。		離職防止に向けた人事管理をより一層行って行きたい。
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内ではステップアップ研修を中心に研修を行っている。また、外部研修にも積極的に参加していくようにしている。		入社時の人材育成計画を6ヶ月をめどに行っているが、よりきめ細かい実施を図って行きたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	電話を中心とした情報交換の実績はある。		勉強会を実現させることでサービスの質の向上を図れるようにできればと考えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	交流会の実施（不定期）を通してストレス軽減に向けた取組みを行っている。		職員等のより多くの意見の収集ができる体制づくりを考えていく。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	マイスター試験（社内）の実施を通して各職員がより向上心を発揮できる体制づくりを行っている。また、マイスター資格所得に関わらず職員の努力、実績等は評価している。		左記の継続により自己研鑽の場を確保して行きたい。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> </div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	管理者・介護支援専門員を中心に、まずしっかりと傾聴していくことに努め、必要であれば社会資源等の情報を紹介している、		常に相談に答えられる体制づくりを完成させたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	電話、ご来所、手紙等をとおして出来るだけ聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。		必要であれば訪問による機会を作り、よりきめ細かい対応に努めていきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の専門職の介護支援専門員を中心に適正な社会資源の紹介を行っている。		さらに、より幅広い社会資源の紹介ができるよう努力していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	具体的には実施できていない。		臨時的ではあるが、短期入所の機会等を利用していただき、馴染めた場への利用となるようにしていきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホワイトボードを使った学習時など利用者様から多くのことを学ばせていただいている。また、調理の手伝い等をお願いすることがある。		すべての職員がすべての利用者に対してご本人を介護される一方の立場におかない視点を持ちきれてはいない。今後とも支えあう関係作りの構築が必要である。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	お見舞い、お手紙、時には連絡ノート等の機会を通していろいろな会話を通して一緒に支えていく関係作りをしている。		左記の内容の継続
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	アセスメントやご家族との会話の中からの情報の中からその関係の理解を深め、よりよい関係作りを支援していくようにしている。		長期の期間をもつての関係への支援を意識していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき た項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お見舞いの方の自由な来訪の受け入れの継続等を通して行っている。		危険回避の対策をとった上で、ご本人のなじみの場所への外出など行って行きたい。また、家族にもご協力を求めて行って行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	それぞれの間関係を把握し、必要以上のいさかきの発生を出来るだけ抑え、支えあう関係作りに努めている。		ご本人の孤立感の把握をしっかり行っていき、一人でいる時間の自由とのバランスをとって行きたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	具体的な実践が出来てはいないが、関係を大切にしていく視点は持っている。		左記の内容のもと、具体的な活動を実施していきよう努めたい。
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族からの情報収集のもと、希望・意向の把握に努めている。		把握困難な場合の検討が、もっと本人本位に寄り添った検討が出来る時間、機会の確保をしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式のアセスメントを中心として行い始めている		左記の内容についてすべての利用者について行えていない現状がある。今後も経過把握に努めて行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメント、介護記録等を通してご本人の現状を総合的につかむよう努力している。		再アセスメントの実施等きめ細かい対応をもっと行って行きたい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居時、面会時や介護計画説明時にご家族の意向もあわせてお聞きし、見直し時等にはその意向も取り入れ確認していただいている。		ご本人や必要な関係者との話し合いの機会の創出ができるようにしていきたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変更プランの作成を柔軟に作成している。特にご本人の体調変化から介護の必要性が大きく変わってきたときに作成する機会が多い。		上記に同様に話し合いの機会の創出をしていきたい。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録への記入が実践されており、その情報の中から、実践方法への反映や介護プランの見直し時に生かしている。具体的には「生活状況記録」や「個別ケア推移記録表」等を用いる。		反映のさせ方がもっと効率的になる記録の作成の検討の必要がある。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	まだ、十分にその多機能性は発揮させていない部分がある。		これから短期利用や地域との交流の場を通してその多機能性を発揮していきたい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	夏祭りなどの行事を行うときを中心に、ボランティアの受け入れなどを通して協働して支援している。		もっと幅広い地域資源との協働をしていく必要を考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要性のもと、他のサービスの利用を定期的に行っているし、必要性和サービスの合致を模索し続けている。		もっと幅広く他のサービスの活用を結び付けられるよう模索していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	まだ行っていない。		情報を提供し、協議会などに参加するよう心がけているが完全ではない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入所時の希望確認の上、かかりつけ医（同法人クリニック）との密接な関係作り及び継続のもと、適切な医療を受けられるよう支援している。		左記の継続支援
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当法人の理事長は、医師であり認知症に深い知見を有している。往診等の機会を利用して医師との相談を欠かさず行っている。		今後とも受診支援の継続を行って行きたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	同法人のクリニックとの連携を密にとり、医療活用の支援をしている。		左記の内容の継続
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	再々とお見舞い等に訪問することで病院関係者との情報交換等に努めている。		利用者第一にすばやい対応をしていきたい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	医師、管理者を中心に家族の心情等を第一に考えつつ終末期について話し合っている。		左記の内容のきめ細かい対応
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所内にて終末期における対応の話し合いをその都度行っている。		よりスムーズな支援をしていくためにかかりつけ医等との密な連携をしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	最善の対応になるようきめ細かい情報交換に努めている。		住み替えによるダメージを防ぐために、ケア関係者間での連絡をもっと密にとれるようにしていきたい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	介護記録は鍵のかかる書庫にて保存している。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員により喫茶店などの工夫を通してご本人の希望にあわせた対応を行っている。		スタッフ全員が心がけているが完全とは言えない。自己決定の尊重を大切にしていきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間等の目安は決めてあるが、入居者個々のペースにあわすよう心がけている。		左記の継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に理髪店に来訪していただいたり、家族に連絡し対応していただいたり、時にスタッフが理髪を行ったり、個々の状況に応じて対応している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の下膳を中心に利用者に参加していただいている。また、個々の嗜好に基づいたメニューを心がけている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ある程度の統一性をもって出来る限りの対応をしている。		よりきめ細かい対応を不公平性を感じさせない範囲で行って行きたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	「生活状況表」を活用し、個々に沿った排泄パターンを把握するよう取り組んでいる。		細かいチェックや対応がまだ充分とは言えない。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の体調に合わせて支援している。入浴時間も基本的には決めてはいない。		完全には自由とはいえない。「体調第一」としていきつつ、入浴を楽しめる対応をしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の意思を尊重しつつ支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	リーダーシップを取れる方には運動の先頭に立って音頭をとっていただき、散歩と一緒にいるなどここに合わせたきめ細かい対応を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族管理を基本とし、面会時などに所持金を確認していただき、個々の力量に応じて保管管理できるよう図っている。		きめ細かい十分な対応が出来ているとはいえないが、引き続き出来る限り対応していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩を中心に外に出かけている。		出来る限り安全を配慮しつつ支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	ドライブ等の行事を通して外出支援を行っている。		家族とともに出かける機会作りを考えて行きたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望に応じて電話等の支援を行っている。		左記の継続
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	出来ている。		左記の継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	学習会などを開催し対応している。		左記の継続
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の安全確保の目的以外での施錠は行っていない。また、玄関は極端な天候や気温の変化以外には開放している。		左記の継続
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者に圧迫感がないような配慮をしつつ安全確認に努めている。		左記の継続
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険を防ぐ視点を中心に対応している。		自然な生活環境を大切にしつつきめ細やかな対応をしていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時対応マニュアルの作成をし、掲示も行っている。また、事故報告書・ヒヤリハット報告書などを有効に活用し、職員の意識向上、事故防止に取り組んでいる。		ケアカンファレンスでも話し合っているが、今後も一人ひとりの状態に応じた対応を話し合っていく必要がある。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応の訓練を定期的には行っていない。		左記の今後の講習会の開催の検討。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議を通して地域代表の方との連絡を密にとっている。		災害時の避難マニュアルの作成の検討。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	その都度、家族と連絡を密にとるため電話連絡を欠かさない。		具体的な理解のために来所時の話し合いが欠かせないので今後出来る限り検討していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックを定期的に行って早期発見対応を図っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬についてはスタッフが対応し、薬を受け取る際には、医師・薬剤師等から説明を受けている。また、症状の変化については、きめ細かく医師への報告を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェックをきめ細かく行い、医師とも連携し、個々に応じた対応をし、適度な運動にも心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々にあった声かけや歯磨き介助うがい支援などを毎食後行っている。		すべての利用者に対応しきれていない。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できる よう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	日々、食事量、水分摂取量を記録していくこと で状態把握し、個々に応じた支援を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	手洗いやうがい、消毒などの励行「衛生管理マ ニュアル」なども作成し取り組んでいる。		昨今の感染症に対して十分な対応とはいえ ない。さらなる見直しや対応の精査が求め られる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の 衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	ハイター消毒やペーパータオルの使用等を行 い、なるべく買い置きせず使いきれぬ買い物を していくことで新鮮な食材管理を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出 入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	段差のない出入りのできる玄関となっており、 アプローチの幅も広く高齢者に優しい構造とな っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等) は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や 季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	いずれにも段差がなく、リビングルームにはサ ンルームがあり、いつでも暖かい日当たりを受 けることが出来る作りとなっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや和室を活用し、自由に使えるようにして個々の居場所を確保している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に事前に説明し、使い慣れたものを持ち込んでいただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調については「スタッフルーム」で温度調節を行っている。また、「居室」や「共有部分」についても、随時換気に気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置、夜間に対しては足元灯の設置を通して自立支援の工夫を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレを居室に近い場所にあるように3箇所設置し行きやすい空間を作ることで行っている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	戸外に園芸が楽しめる区画を配置したり、プランターを使用したり花作り等ができるように環境を整えている。		利用者自身に楽しんで活用していただききかれていない。